

## 2021年(令和3年)度 江戸川大学国立公園研究所の 活動について(報告)

### I 内外の国立公園、自然公園に関する資料の収集と整理

- 2018年度より研究所内の所蔵資料のリストをHPで公開し、閲覧・貸出を行っている。また、引き続き寄贈された資料等の整理・分類作業を行っている。
- 2020年度末にご寄贈いただいた伊藤太一客員教授(元筑波大学教授)の主に海外の国立公園関係の書籍や資料などの整理を継続して実施した。

### II 国立公園研究所特別講座

- 2021年度は、2020年度と同様、駒木学習センターとの共催の公開講座はコロナ感染症対策によりすべて中止となった。

### III フォーラム・講演・大学駒木祭参加等による啓発活動

#### 1. 江戸川大学駒木祭

- 日 時：2021年11月2日(火) 3日(水)
- 場 所：WEB開催
- 主 催：国立公園研究所
- 内 容：昨年度と同様、駒木祭が全面的にWEB開催となったため、写真で国立公園の風景を紹介しながら、クラシック音楽をプロ演者の演奏で楽しんでいただく動画の第2弾を作成、映像をオンラインで楽しんでいただいた。  
駒木祭のプログラムにおいて最初の配信を行い、その後、大学のウェブサイトの研究所のコーナーにおいて動画の公開を行う予定。

#### 2. NHK ラジオ取材対応

- 日 時：2022年1月13日(木)
- 番 組：NHK 第一「武内陶子のごごカフェ」
- 出 演：中島慶二 国立公園研究所長
- 内 容：「日本の国立公園に行ってみよう」をテーマに、午後2時台の約1時間、日本の国立公園の歴史、概要や魅力について紹介した。

#### 3. シンポジウム開催

- 日 時：2022年3月9日(水)13:30～15:00
- 主 催：国立公園研究所
- 内 容：「クマと人のつきあい方をいま考えよう」をテーマに、国立公園内にとどまらず近年では市街地近くに出没するケースが増えているクマについて、第一線の科学者、行政官を呼び、全国から約150名の参加者を得て、市街地や国立公園の中でクマを引き寄せないため何が必要なのかを考えた。クマは縄張りを持たないため、樹木の実の成りが悪い年、エサ資源が不足しているときには広範囲にエサを探して歩き回る。近年では人の生活圏にすぐ近くに生息していることから、人の生活圏周辺でのエサ資源管理対策の徹底が重要であることが確認された。(今号に詳細記録を掲載したもの)

#### 4. ウェブページによる普及啓発

江戸川大学のウェブページの中に国立公園研究所のコーナーを設け、随時更新しつつ資料公開を行っている。

### IV 国立公園に関する研究等の実施

#### 1. 論文・論説・研究報告等(今号に掲載したもの)

- 大学生の環境学習プログラムづくりを通じた環境保全活動のテーマの関心度と企画立案内容の特徴に関する考察  
佐藤秀樹
- 上高地における木製公園施設の再整備について 中島慶二
- 国立公園における情報提供システムの方向性と課題について —上高地集団施設地区中心部を事例として—  
土屋薫 中島慶二
- 現地報告 奥日光・尾瀬における歩くガイドツアーの現状 —特に高齢参加者の増加に着目して— 宮地信良
- 南米初の国立公園はなぜウルグアイで？～フランクリン・デラノ・ルーズベルト国立公園成立の背景～  
親泊素子
- 韓国北漢山国立公園の周回歩道「北漢山トゥルレキル」に関する考察 油井正昭

#### 2. 雑誌「国立公園」への寄稿

雑誌「国立公園」通巻第792号(令和3年4月号)～第801号(令和4年3月号)まで、計10編を寄稿した(今号に転載したもの)

- 連載第26回(令和3年4月号) コロナ禍と大学のフィールド実習 中島慶二
- 連載第27回(同5月号) バングラデシュの農村地域住民による自立発展性を目指した里山農業保全活動  
～コミュニティベース型シードバンクの設立による地域価値の創出～ 佐藤秀樹
- 連載第28回(同6月号) 負の遺産と国立公園 親泊素子
- 連載第29回(同7月号) 令和3年自然公園法改正は公園利用をどう改善するのか 中島慶二
- 連載第30回(同9月号) 持続可能な開発と保全、MABの関係 伊藤太一
- 連載第31回(同10月号) 国立公園における地熱発電の諸問題 吉永明弘
- 連載第32回(同11月号) 「まちあるき」から考える国立公園の利用促進 土屋 薫
- 連載第33回(同12月号) アメリカのクマ対策とクマ対策製品認定制度 寺井克之
- 連載第34回(令和4年1月号) 国立公園創設へ中越延豊の活躍と功績 油井正昭
- 連載第35回(同3月号) 新たな自然公園利用の具体化を考える—公園法改正を受けて 宮地信良

### V その他

#### 1. 年次報告の発行

国立公園研究所年報第6号を発行し、関係者へ配布した。(12月)

#### 2. 国立公園研究所調査研究スカラシップについて

令和3年度の1年間については、ひきつづきコロナ禍の影響で現代社会学科の海外研修が取りやめとなり、学生の貸与希望はなかった。

#### 3. 休暇村協会からの寄付と学生支援について

平成29年度末、一般財団法人休暇村協会から、国立公園に関する研究を推進している江戸川大学の教学の理念に賛同するとして、大学に対して100万円のご寄付を賜り、これを原資として、現代社会学科学生の研修旅行等への旅費支援(国内は5千円、海外は2万円を上限)を行っている。

しかしながら、コロナ禍の影響で海外研修等が取りやめとなったことなどから、助成実績はなかった。

#### 4. 自然公園財団との業務契約について

平成30年4月より、一般財団法人自然公園財団と、江戸川大学国立公園研究所の間で業務契約を結び、今年度は以下の業務を実施した。

業務内容：

- 1 自然公園財団出版物の監修(中島慶二研究所長による)  
2022自然公園の手びき
- 2 「国立公園」誌編集委員会への参加
- 3 「国立公園」誌への定期投稿(今号に転載したもの)